

2020年12月号へのご意見

「できるかもしれない」という気持ちを育む

指導要録の様式が改訂され、3観点での学習評価が求められることになる。そうした中、「できるかもしれない」といった次の学習に向かう姿勢の育成は重要だ。一人ひとりに適切に声をかけることで生徒の背中をどう押すか、指導の肝はそこに尽きる。教師間で情報を共有し、「こうしたら××になってしまう」ではなく、「こうしたら〇〇になれる」と、生徒に夢と希望と勇気を与えられる教師でありたいと、12月号の特集を読み、強く思った。教師の一言で、生徒は変わる。 兵庫県 匿名希望

評価に関する生徒の生の声が参考になる

3観点での学習評価が求められることになり、本校でもその対応への検討が始められた。その中で、12月号の特集で紹介された「高校生に聞いた『よい影響・マイナスの影響を与える教師からのアドバイス・声かけ』」は、生徒の生の声だったので、校内での検討に非常に参考になった。 神奈川県・川崎市立聾学校 藤原正利

海外の入試問題の評価方法を参考にしたい

学校には、生徒や保護者に教育理念とその実現のための評価のあり方を丁寧に伝えることが求められる。12月号の特集の座談会で、北海道大学の鈴木誠名誉教授が自身の経験として話されていた、海外の大学の入試問題を紹介し、そこで測ろうとしている力を説明する方法を取り入れたいと思う。 山口県 匿名希望

「学び方」を学んでほしいという思いが伝わる

12月号の「実践 アクティブ・ラーニング」で紹介された大阪府・私立追手門学院大手前中・高校の福島哲也先生の記事は、生徒に「学び方」を学んでほしいという福島先生の思いがよく伝わってきた。「これからの社会では、何が必要なかを自分で考えて選択するので、その練習を授業でしている」「社会では、好き嫌いに関係なく、多様な他者と仕事することになる」など、実感を伴う言葉で生徒に説明している点が参考になった。滋賀県立草津東高校 堀 浩司

自己の体験を進路指導につなげていきたい

12月号の「これからの進路指導のための世の中トレンド解説」の「働き方改革」の記事を自分事として読んだ。教師の働き方も当然つながるところがあり、大変興味深かった。今後は、教師もジョブ型になるのだろう。自分が何の専門家なのか、得意分野は何か、いま一度見直し、自己分析をして、その体験を進路指導に生かしたい。 静岡県・私立沼津中央高校 後藤松太郎

他者との話し合いから教師の自走化が始まる

生徒の自走化を図る前に、5年先、10年先を見通して教育活動をする、教師の自走化も必要だ。そのために、全国の先生方とオンライン・オフラインで話し合い、自分を成長させていかなければならない。その点で、12月号の「若手教師・教育創造 MTG」での取り組みは、非常によかった。 愛媛県立松山北高校 大谷修一



VIEW21 編集部には配属される以前は、私は学校担当として秋田県に日々お邪魔しておりました。「改良！ 指導ツール ピフォーアフター」の取材のための久しぶりの往訪にあたり、「あゝ おまへはなにをして来たのだと……吹き来る風が私に云ふ」中原中也の「帰郷」が想起されました。が、取材日は、そんな私の銜いを吹き飛ばす記録の暴風雪。温かく迎えてくださった秋田県立能代松陽高校の先生方、本当にありがとうございました。さて、同コーナーの取材では、板書は必須。時には図表も交えて対話の内容を書き留める筆記音の伴奏が、その場での気づきに深みを与えます。『VIEW21』最後の1年の取材では、黒板は「画面共有」に、伴奏がキーボードの打鍵音に代わることもありましたが、対話の中で生まれる気づきを大事にする姿勢は一貫したつもりです。『VIEW next』でもその志を忘れることなく、編集に努めます。(河野)



電子ブックで閲覧可能

『VIEW21』
高校版は

『VIEW21』高校版の2020年4月号以降の号は、電子ブックでご覧いただけます。ベネッセ教育総合研究所のウェブサイトでご確認ください。
HOME → 教育情報 → 高校向け → 情報誌最新号

VIEW21 最新号 検索

VIEWnext 高校版 創刊号 2021年4月号は
4月15日発刊(予定)

『VIEW next』高校版も年6回の発刊です